



1911年  
開場



1966年  
開場

株主の皆様へ

## 第122期 第2四半期のご報告

平成22年3月1日から平成22年8月31日まで



東宝株式会社

証券コード 9602

# 帝国劇場開場100周年

国内最高峰の文化の殿堂、  
日本演劇史に燦然と輝く伝統ある劇場として、  
さらなる100年に向けてスタートします。

2011年に開場100周年を迎えるにあたり、時代とともに進化する  
帝国劇場の歴史と未来を高井社長並びに増田専務がお話します。



## 帝国劇場の歴史

Q もともとは明治時代、当時の国運の隆盛にふさわしい国際的な文化施設をとの構想による劇場と伺っています。

増田 帝都の模範劇場を創るという意向で、主要な政・財界人が発起人となり明治44年(1911)に帝国劇場が完成しました。3つの目標「日本の伝統芸術の継承発展」「西洋の舞台芸術の紹介」「日本の新しい舞台芸術の創造」を掲げ、歌舞伎はもちろん、世界的な芸術家を招いたバレエやオペラ、ヴァイオリニストから新劇の「ハムレット」「復活」など、非常に多彩な作品が上演されています。また当時「我が国で最も高価な、最も美しい、最もシックな劇場」と評されたそうです。我が国の舞台芸術を、この劇場を本拠として、より高度に発展向上させるために建設されたのです。

Q しかし大正12年(1923)に関東大震災、昭和4年(1929)に世界大恐慌など不安定な世情が続きました。

高井 歌舞伎を観るにも栈敷だけの小屋しかなかった時代に、日本で初めて椅子のある劇場が創られました。しかし残念ながら、当時は演劇だけで維持するのはなかなかむずかしく、映画館として使用されるなど試行錯誤が続き、厳しい経営を迫られたようです。

増田 海外の名作映画が数多く上映された時期には、映画館としては素晴らしいが、演劇劇場としては「宝の持ち腐れ」となってしまったわけですね。

高井 昭和12年(1937)から帝国劇場は東宝傘下となりますが、戦争によって直後に政府の施設として徴用されるなどなにかんだ、戦後まで激動の時代が続きました。



代表取締役社長  
高井 英 幸

専務取締役 演劇担当  
増田 憲 義

Q ようやく昭和20年(1945)に再オープンし、「東宝の帝国劇場」が本格始動しました。

増田 戦後の帝劇は創設時と同じく国際的な“文化の殿堂”という精神に加えて、当社の創業者である小林一三翁は「東宝の演劇はその時代の広い大衆に奉仕するものである」、そして「帝劇が、国民大衆の財産になること。一般大衆に共感される現代演劇を作っていく」ことを宣言しました。

高井 実は旧帝劇で上演された菊田一夫作「モルガンお雪」(1951)を私が中学生の時に偶然観ていまして、子ども心にもこれがミュージカルかと記憶に残っています。以後はシネマ専門劇場となり、新帝劇開場まで映画館として活躍します。

## 日本のミュージカルの発信地として

Q 昭和41年(1966)に新帝劇を開場、以来「屋根の上のバイオリン弾き」「ラ・マンチャの男」「マイ・フェア・レディ」「レ・ミゼラブル」など優れたミュージカル作品が次々と生まれました。

増田 東宝のミュージカルは長い歴史を誇ります。ただ、新帝国劇場前半の歴史ではストレートプレイの上演数がミュージカルを上回り、お芝居の黄金時代でした。新帝劇開

場直後の「風と共に去りぬ」は5か月のロングラン公演、その他来年の100周年記念公演で上演回数1,200回を超える「細雪」など、日本を舞台とした数多くの名作も生まれました。

高井 これまでも映画・演劇事業に当たり外れは当たり前と申しあげてきましたが、演劇はキャパシティの限られた劇場での上演であり、映画よりもリスクが高くなります。前述のとおり旧帝国劇場は高い志がありつつ経営の問題から演劇を中断することもありました。当社の場合、以前には新作を毎月のように上演していましたが、本場のブロードウェイでさえ新作をそれほど上演していません。結果として、世界から優れたミュージカル作品を日本に導入しつつ、東宝独自のやり方で戦略的にロングラン公演や再演を行い、志と経営効率の両立をめざしました。

増田 ブロードウェイ方式のロングランではなく、お客様に様々な作品を楽しんでいただけるレパトリー方式をとっています。「レ・ミゼラブル」「ミス・サイゴン」では日本初の全役オーディションや複数キャスト制を実施し、世界レベルで認められる新しい才能を発掘したり、配役の組み合わせを楽しんでいただくお芝居の楽しみ方を提供して、お客様に喜んでいただいています。

## さらなる100年に向けて

Q 2011年の開場100周年記念公演では多彩なラインアップが揃いました。

増田 帝劇の歴史に残る代表作は、人気作では、「風と共に去りぬ」「レ・ミゼラブル」、2000年のスタート以来800回公演を迎える堂本光一さん主演の「Endless SHOCK」などジャニーズ事務所の人気3作品、「細雪」などヒット作に加えて、新作として「三銃士」と「ニューヨークへ行きたい!!」を上演します。

高井 ジャニーズ事務所との提携は既に10年ですが、若い方に帝国劇場を知っていただく機会であり、全国から新しい観客層を取り込む点で大きな効果があります。出演者の方々も帝国劇場だからこそその舞台をと力を入れていただき、質の高いステージを作ってくださっています。

Q これからの帝国劇場がめざすものとは？

高井 演劇の魅力は「ライブ」であることです。そして「ライブ」を観たいという欲求は人間の本能ともいえます。演劇の歴史は映画よりも遙かに長く、これからも世の中から演劇がなくなることは決してないでしょう。あとは私たちが「生の魅力」を今の時代のお客様にどれだけ伝えられるか、喜んでいただける作品を創っていけるかです。

増田 お客様が求める新しいものを見逃さないためにも、我々が上演テーマを限定せず、劇場は常にあらゆる可能性に開かれていなければならないと思っています。また、演劇事業全体では全国各地の劇場で東宝演劇のソフトをご活用いただく、また昨年は当社オリジナルミュージカル「マリー・アントワネット」をドイツで公演しましたが、国内外に東宝の演劇を発信することも重要です。

高井 東宝は映画と演劇が2本柱です。演劇では作品だけでなく「どこで見たか」も重要です。お客様にとって帝国劇場での観劇がステイタスであり続けるよう、高品質な作品を上演し続ける、そのためにリスクを見極めながら経営資本を投入し安定した経営を維持することが我々経営陣の役割です。今までの100年を踏まえて、これからの100年に向けてどのように進化すべきか、それが我々のさらなる課題だと認識しています。



営業の概況

当上半期における我が国経済は、企業業績に漸く改善の傾向が見られたものの、個人消費や雇用情勢は依然低迷したまま、円高や海外経済の下振れリスクにより景気回復への予測を許さない厳しい状況で推移いたしました。

映画界におきましては、洋画の3D大作のメガヒットが興行界を牽引、その結果興行環境におけるデジタル化の動きが加速、3D映画の公開本数は増加し、社会的にも大きな話題を提供いたしました。

このような情勢下において当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、主力の映画事業のうち映画営業事業部門において夏公開作品が大ヒットとなったほか各作品が順調に稼働、映画興行部門において当社配給作品のほか、洋画作品も3D作品を中心に堅調な展開を見せました。この結果営業収入は1,054億3千4百万円（前年同四半期比0.3%減）、営業利益は139億3千6百万円（同19.4%増）、経常利益は144億3千3百万円（同16.8%増）、四半期純利益は72億2千万円（同28.2%増）となりました。

以下各事業部門別にご報告申し上げます。

映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、当社において表1記載の18番組20本を提供いたしました。

表1. 当第2四半期連結累計期間中の提供映画作品

| ① 共同製作・配給作品                             |                                    |
|-----------------------------------------|------------------------------------|
| ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ                     | ダーリンは外国人                           |
| 名探偵コナン 天空の難波船                           | のだめカンタービレ 最終楽章 後編                  |
| 劇場版TRICK 霊能力者バトルロイヤル                    | ボックス！                              |
| 座頭市 THE LAST                            | 告白                                 |
| FLOWERS－フラワーズ－                          | 借りぐらしのアリエッティ                       |
| ハナミズキ<br>～君と好きな人が百年続きますように～             | カラフル                               |
| 劇場版 メタルファイト ベイブレードVS太陽～灼熱の侵略者ソルブレイズ～    |                                    |
| 劇場版デュエル・マスターズ<br>炎のキズナ××!!              |                                    |
| ② ①以外の当社配給作品                            |                                    |
| 映画ドラえもん のび太の人魚大海戦                       | 映画クレヨンしんちゃん 超時空！嵐を呼ぶオラの花嫁          |
| 踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ！            | 劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール 幻影の覇者ゾロアーク |
| 劇場版NARUTO－ナルト－疾風伝 ザ・ロストタワー              |                                    |
| 劇場版NARUTO－ナルト－そよ風伝 ナルトと魔神と3つのお願いだってばよ!! |                                    |

また、東宝東和(株)において「ダレン・シャン」「ウルフマン」「グリーン・ゾーン」「レポゼッション・メン」の4本を配給いたしました。その結果映画営業事業収入は228億2千9百万円（前年同四半期比5.7%減）となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)を中心にグループ各興行会社において前記各作品のほかに、「アリス・イン・ワンダーランド」「トイ・ストーリー3」「インセプション」「ソルト」等、邦洋画の話題作を上映いたしました結果、映画興行事業収入は353億6千1百万円（前年同四半期比3.9%増）となりました。また、当社グループの当第2四半期連結累計期間中の劇場異動は表2のとおりとなり、東宝系興行網の再構築を進展させました。新規オープンした劇場は順調に稼働、

当社グループのスクリーン数は6スクリーン増の合計588スクリーン（共同経営44を含む）となりました。さらに前期から引続き各劇場への新興行管理チケット販売システムの導入を進めるとともに、インターネット販売でも利用可能なギフトカードの新規発行や、3Dデジタルシネマ機器の導入を加速、またサッカー中継や宝塚歌劇団・AKB48等のライブ公演をリアルタイムに楽しめるODSによる新規顧客の獲得に努めました。

表2. 当第2四半期連結累計期間中の劇場異動

| 月日    | 劇場名         | スクリーン | 場所  | 経営主体        | 異動内容 |
|-------|-------------|-------|-----|-------------|------|
| 4月16日 | TOHOシネマズ上大岡 | 9     | 横浜市 | TOHOシネマズ(株) | オープン |
| 8月31日 | 札幌東宝公楽      | △1    | 札幌市 | 北海道東宝(株)    | 閉館   |
| 8月31日 | 旭川東宝        | △2    | 旭川市 | 北海道東宝(株)    | 閉館   |

映像事業のうち映像制作事業では、当社において連続テレビドラマ「警部補 矢部謙三」「ハンマーセッション!」、スペシャルドラマ「TRICK 新作スペシャル2」他のテレビ番組を制作し、また劇場用映画「劇場版TRICK 霊能力者バトルロイヤル」「告白」「悪人」を製作いたしました。映像ソフト事業は、当社において表3ほかの提供を行いました。

出版・商品事業は、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「映画ドラえもん のび太の人魚大海戦」「名探偵コナン 天空の難波船」「告白」「踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ!」「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール 幻影の覇者ゾロアーク」「借りぐらしのアリエッティ」をはじめとする当社配給作品が、洋画では「トイ・ストーリー3」等が順調に稼働いたしました。映像ソフト制作事業は、製作作品TVアニメ「はなかつぱ」が、3月29日よりNHK教育テレビにて月～金毎朝夕での放送が開始されました。また映画以外のコンテンツであるODSの配給業務として、日韓共同企画のテレビ用映画「テレシネマ7」の7作品を上映いたしました。さらに「東宝怪獣キャラクター」等の商品化権収入に加え、

各種配分金がありました。また、(株)東宝映像美術、東宝舞台(株)、東宝アド(株)等各社で同業他社間の厳しい競合のなか、コスト削減に努めながら映画・演劇等の美術、イベントその他の事業の受注増を図り、映像事業収入は121億2千5百万円（前年同四半期比11.6%増）となりました。

以上の結果、映画事業収入は703億1千7百万円（前年同四半期比1.8%増）となりました。

表3. 当社において当第2四半期連結累計期間中に提供した主なビデオ作品

| 作品・商品名                                   | レンタル用DVD<br>(リリース日) | 販売用DVD<br>(発売日) |
|------------------------------------------|---------------------|-----------------|
| 東宝特撮Blu-rayセレクション 三大怪獣 地球最大の決戦           | —                   | 3月19日           |
| 東宝特撮Blu-rayセレクション モスラ対ゴジラ                | —                   | 3月19日           |
| マイガール DVD-BOX                            | 3月26日               | 3月26日           |
| カイジ ～人生逆転ゲーム～                            | 4月9日                | —               |
| 人生に乾杯!                                   | 4月9日                | 4月9日            |
| スベル                                      | 4月23日               | —               |
| 美男<イケメン>ですね DVD-BOX                      | —                   | 4月23日           |
| 沈まぬ太陽（※販売用ブルーレイディスクも発売）                  | 5月14日               | 5月28日           |
| なくもんか                                    | 5月21日               | —               |
| マジすか学園 DVD-BOX                           | 5月21日               | 5月28日           |
| 宇宙戦艦ヤマト 復活篇                              | 6月4日                | —               |
| ゼロの焦点（※販売用ブルーレイディスクも発売）                  | 6月4日                | 6月18日           |
| 秘密結社 鷹の爪 THE MOVIE 3 ～http://鷹の爪.jpは永遠に～ | 6月4日                | 6月18日           |
| ウルルの森の物語                                 | 7月9日                | —               |
| 映画 レイトン教授と永遠の歌姫                          | 7月9日                | —               |
| オーシャンズ（※レンタル用ブルーレイディスクもリリース）             | 7月9日                | —               |
| ゴールデンスランパー                               | 8月6日                | —               |
| 映画 ドラえもん のび太の人魚大海戦                       | 8月6日                | —               |

演劇事業

演劇事業では、帝国劇場におきまして、2000年の初演から全席売上の記録を更新している「Endless SHOCK」が記念すべき10周年を迎え、今年は2、3月及び7月と公演を行い、年間100回のロングランを達成しました。6月「キャンディード」は「レ・ミゼラブル」を演出したジョン・ケアード版の日本初演で高い舞台成果の公演となりました。



■「ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ」  
©2010 フジテレビジョン/集英社/東宝/FNS27社



■「告白」  
©2010 「告白」製作委員会



■「踊る大捜査線 THE MOVIE3  
ヤツらを解放せよ!」  
©2010 フジテレビジョン アイ・エヌ・ピー



■「インセプション」  
©2010 Warner Bros. Entertainment Inc.



■「警部補 矢部謙三」  
©テレビ朝日・東宝



■「ゼロの焦点」Blu-ray  
「ゼロの焦点<Blu-ray>（特典DVD付2枚組）」6月18日Blu-ray発売  
発売元：株式会社電通 / 株式会社テレビ朝日 販売元：東宝株式会社  
©2009「ゼロの焦点」製作委員会

た。8月スタートの「エリザベート」は新キャストが加わり、大ヒット公演となりました。シアタークリエは、4月「ガイズ&ドールズ」、5月の内博貴によるファン感謝ライブ「オレの内に来てクリエ!」、A・B・C-Zプロデュース・出演による「みんなクリエに来てクリエ!」が完売を記録しました。7月は、オリジナル・ミュージカル・コメディ「まさかのChange?!」も連日満席の好成績となりました。また、「ウィーン・ミュージカル・コンサート」「『ニュー・ブレイン』ガラコンサート」等短期のコンサート公演を行い、そのなかでも「DRAMATICA／ROMANTICA」は、渋谷C.C.Lemonホールで追加公演を行うほどの大盛況となりました。また、全国へと展開を続けている社外公演なども事業収益に大きな寄与をいたしました。一方、(株)コマ・スタジアムでは団体動員の落ち込みにより制作公演の興行が苦戦いたしましたものの、東宝芸能(株)ではドラマ制作現場や広告業界におけるコスト削減の影響を受けた厳しい状況下、主要俳優が稼働して営業収入が増加いたしました。

この結果、演劇事業収入は62億4千7百万円（前年同四半期比12.9%増）となりました。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、当社の不動産経営部門において、4月に「京都東宝公衆ビル（仮称）」（京都公衆会館跡、用途はホテル）の新築工事に着手し、5月末には「アビティ砦」（円谷建物跡、用途は賃貸マンション）が竣工いたしました。また、6月には世田谷区成城の「旧技研土地再開発計画」に着手いたしました。東宝スタジオでは、敷地の有効利用をめざして商業開発にも着手し、また(株)くろがねやに建物を賃貸する形で7月にホームセンター「くろがねや成城店」がオープンいたしました。ステージレンタルでは景気減退の影響で映画の本数が減少したものの、「SP

THE MOTION PICTURE 野望篇」「SP THE MOTION PICTURE 革命篇」「岳－ガク－」「ステキな金縛り」等当社配給作品を中心に10本の映画を誘致いたしました。また東宝不動産(株)では、新規賃貸物件の取得に努めるとともにビル諸設備の計画的な改修やテナントへのきめ細かな対応を図るなど、積極的な営業活動を推進いたしました。三和興行(株)においては昨年オープンした新宿三丁目東宝ビル「レインボービレッジ」が順調に稼働いたしております。さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社も営業努力を続けました。これらの結果、不動産賃貸事業収入は141億3千7百万円（前年同四半期比0.5%増）となりました。

道路事業では、スバル興業(株)とその連結子会社が、公共事業費の削減の影響による価格競争の激化など一段と激しい企業間競争にさらされ、道路の維持・清掃や補修工事の受注確保に努めましたが、道路事業収入は91億8千6百万円（前年同四半期比7.2%減）となりました。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)、(株)東宝サービスセンターにおいて熾烈な価格競争が続く厳しい経営環境の下営業努力を重ねましたが、不動産保守・管理事業収入は50億4百万円（前年同四半期比5.1%減）となりました。

以上の結果、不動産事業収入は283億2千8百万円（前年同四半期比3.1%減）となりました。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、東宝共栄企業(株)においてゴルフ練習場やテニスコート等一部施設のリニューアル工事のため、事業縮小による運営となりました。また、(株)東宝エンタープライズ等において個人消費が伸び悩むなか、飲食部門で収益を伸ばしましたが、その他事業収入は5億4千2百万円（前年同四半期比70.7%減）となりました。

通期の見通し

今後の我が国経済は、長引く円高や世界経済の停滞、国内の政策効果の減速が輸出や生産の拡大にブレーキをかけ企業業績を圧迫、景気は足踏み状態に陥ることが懸念され、先行きの不透明感が増しております。

映画界におきましては、映画製作・配給・興行におけるデジタル化の動きが一層加速していくと思われます。映画というメディアにとって大きな変革期といえるこの機を逃すことなく、お客様のニーズに最大限に応え、よりクオリティーの高いコンテンツの提供に努めることにより、消費者の厳しい作品選別眼に応えるべく努力してまいります。また、当社の演劇事業におきましては、帝国劇場が2011年に開場100周年を迎えます。記念すべき年にふさわしい豪華ラインナップで華を添えてまいります。

そのようななか、当社グループの通期における業績見通しは、営業収入1,975億円（前期比2.1%減）、営業利益208億円（前期比8.6%増）、経常利益218億円（前期比8.1%増）、当期純利益は98億円（前期比24.4%増）をそれぞれ予想いたします。

以下各事業部門別の見通し（8月末現在）をご説明申し上げます。

■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、当社において表4記載の作品を提供する予定をいたしております。

表4. 当下半期提供予定映画作品

| ① 共同製作・配給作品                        |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 悪人                                 | THE LAST MESSAGE<br>ーザ・ラストメッセージー海猿 |
| 君に届け                               | 十三人の刺客                             |
| 雷桜                                 | SP THE MOTION PICTURE 野望篇          |
| SPACE BATTLESHIP ヤマト               | 劇場版BLEACH 地獄篇                      |
| チェブラーシカ<br>くまのがっこう<br>～ジャッキーとケイティ～ | 劇場版イナズマイレブン<br>最強軍団オーガ襲来           |
| 僕と妻の1778の物語                        | GANTZ                              |
| 太平洋の奇跡<br>ーフォックスと呼ばれた男ー            | あしたのジョー                            |
| ② ①以外の当社配給作品                       |                                    |
| ノルウェイの森                            |                                    |

また、東宝東和(株)において「怪盗グルーの月泥棒 3D」「ロビン・フッド」等4本の配給を予定しております。これらにより、映画営業事業収入は397億円（前期比1.4%減）を見込んでおります。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)を中心にグループ各興行会社において、前記配給作品に加え、待望のシリーズ完結編が公開される「ハリー・ポッターと死の秘宝 (PART1)」をはじめ、「ナイト&デイ」「トロン：レガシー」等の大作・話題作を上映する予定です。これらにより、映画興行事業収入は641億円（前期比0.9%増）を見込んでおります。一方、当社グループの下半期中の劇場異動予定はございませんので、当期末スクリーン数は当第2四半期連結累計期間と同数の合計588スクリーン（共同経営44を含む）となります。



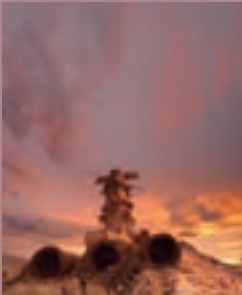
■ 帝国劇場4、5月公演「レベッカ」



■ シアタークリエ「まさかのChange?!」



■ アビティ砦



■ 「SPACE BATTLESHIP ヤマト」  
©2010 SPACE BATTLESHIP ヤマト  
製作委員会



■ 「ノルウェイの森」  
©2010 「ノルウェイの森」 村上春樹／アスミック・エース、  
フジテレビジョン



■ 「チェブラーシカ」  
「くまのがっこう ～ジャッキーとケイティ～」  
©2010 Cheburashka Movie Partners /Cheburashka Project  
©BANDAI/劇場版「くまのがっこう」製作委員会

映像事業のうち映像制作事業では、当社において連続ドラマ、2時間ドラマ等のテレビ番組を制作し、また劇場用映画「星守る犬」を製作いたします。映像ソフト事業は、レンタル及びセル用DVD作品として「劇場版TRICK 霊能力者バトルロイヤル」「座頭市 THE LAST」「告白」「FLOWERS－フラワーズ－」「テレシネマ7」「瞳の奥の秘密」、TVアニメ「ぬりひょんの孫」等を提供し、他にレンタル用作品として「名探偵コナン 天空の難波船」「ボックス!」を、セル用作品として森繁久彌主演「社長シリーズ」「駅前シリーズ」14作品を発売、バラエティに富んだ作品群を提供いたします。出版・商品事業は、「THE LAST MESSAGE－ザ・ラストメッセージ海猿」「SP THE MOTION PICTURE 野望篇」「SPACE BATTLESHIP ヤマト」「GANTZ」「トロン：レガシー」に加え、「東宝カレンダー」を中心に展開いたします。映像ソフト制作事業は、ODSの配給作品としてMr.Children「Split the Difference」、TAKARAZUKA REVUE CINEMA「THE SCARLET PIMPERNEL（スカーレット ピンパーネル）」「リサとガスパール」等を上映するとともに、ゴジラをはじめとする「東宝怪獣キャラクター」等による商品化権ビジネスに注力いたします。

また、(株)東宝映像美術、東宝舞台(株)、東宝アド(株)等各社で、コスト削減や顧客ニーズの獲得等の営業努力を続けながら、各種事業のさらなる受注を図り、映像事業収入は235億円（前期比2.9%増）を見込んでおります。

以上の結果、映画事業収入は1,273億円（前期比0.9%増）を見込んでおります。

## ■ 演劇事業

演劇事業では、帝国劇場は8月から3ヶ月のロングラン公演「エリザベート」、11、12月は4度目の上演となるウィーンミュージカルの傑作「モーツァルト!」。いよいよ開場100周年を迎える2011年はその記念公演と銘打ち、1月滝沢秀明出演「新春 滝沢革命」、2、3月堂本光一出演「SHOCK」の大ヒット作で幕を開けます。またシアタークリエでは、9月は感動の実話を舞台化した「奇跡のメロディ 渡辺はま子物語」、10、11月は、前回公演で伝説を生んだ「RENT」が待望の再演、12月は大ヒット漫画の舞台化「プライド」、2011年1月は一路真輝・瀬奈じゅんのWキャストによるミュージカル「アンナ・カレーニナ」の上演です。日生劇場2011年1、2月公演は、世界が注目するミュージカル「ZORRO THE MUSICAL」をロンドン・パリ・モスクワに続き、オリジナルプロダクションから海外スタッフを招いて日本初演いたします。また、JCBホールにて11月には大地真央が最後のイライザを演じる「マイ・フェア・レディ」、青山劇場にて2011年2月「愛と青春の宝塚」の凱旋公演が決まりました。社外公演では「マイ・フェア・レディ」「RENT」「モーツァルト!」等を上演し、東宝演劇公演を積極的に全国へと展開いたします。

これらの結果、演劇事業収入は136億円（前期比1.5%減）を見込んでおります。

## ■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、当社の不動産経営部門において、世田谷区成城の「旧技研土地再開発計画」の年内の完成をはじめ、全国に所有する土地・建物等の検証を行い、長期的な視野で改修や新規開発を順次実施してまいります。東宝スタジオでは、当期に関しては景気減退の影響で映画関連収入が全般的に伸び悩みそうですが、映画業界の製作意欲は引続き旺盛で、その需要を取り込み製作現場の期待に応えてまいります。第2次スタジオ改造計画についても新ポストプロダクションセンター、新5、6ステージが9月29日にグランドオープン、足掛け8年に亘ったスタジオ改造がいよいよ完成いたします。また東宝不動産(株)においては、立地・環境・収益性等に優れた新規賃貸物件の取得に努めるとともに積極的な営業活動により業績の向上を図ります。さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社においても営業努力を続けてまいります。これらの結果、不動産賃貸事業収入は282億円（前期比0.2%減）を見込んでおります。

道路事業では、スバル興業(株)とその連結子会社において、公共事業の縮減、同業他社間の価格競争の激化等、引続き厳しい経営環境が続くものと予想されます。この結果、道路事業収入は172億円（前期比10.4%減）を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び(株)東宝サービスセンターにおいて、新規受注の拡大、コスト削減を図るとともに、高付加価値サービスを提供できる体制作

りを進めてまいります。不動産保守・管理事業収入は101億円（前期比3.6%減）を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業収入は555億円（前期比4.2%減）を見込んでおります。

## ■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、消費者の低価格志向が続く厳しい環境のなか、東宝共栄企業(株)、(株)東宝エンタープライズ等において、積極的に新規顧客獲得に取り組む一方、柔軟な営業体制の構築に努めてまいります。その他事業収入は11億円（前期比67.1%減）を見込んでおります。

（注：本報告書中の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。）



■ 「ハリー・ポッターと死の秘宝（PART1）」  
©2010 WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC. HARRY POTTER PUBLISHING RIGHTS C.U.K.R. HARRY POTTER CHARACTERS, NAMES AND RELATED INDICIA ARE TRADEMARKS OF AND ©WARNER BROS. ENT. ALL RIGHTS RESERVED.



■ DVD「告白」  
2011年1月28日DVD & Blu-ray同時発売  
（ジャケットデザインは変更になる場合があります。）  
©2010「告白」製作委員会



■ ODS作品  
「THE SCARLET PIMPERNEL（スカーレットピンパーネル）」  
©宝塚歌劇団  
©宝塚クリエイティブアーツ



■ 帝国劇場「モーツァルト!」  
Photo by Leslie Kee



■ シアタークリエ「アンナ・カレーニナ」



■ 東宝スタジオ  
「新ポストプロダクションセンター」

四半期連結貸借対照表

| 科目                    | 当第2四半期連結会計期間末 | 前連結会計年度末に係る<br>要約連結貸借対照表 |
|-----------------------|---------------|--------------------------|
|                       | 平成22年8月31日    | 平成22年2月28日               |
| <strong>資産の部</strong> |               |                          |
| 流動資産                  | 85,513        | 73,228                   |
| 現金及び預金                | 9,934         | 11,823                   |
| 受取手形及び売掛金             | 16,131        | 14,340                   |
| 有価証券                  | 3,868         | 3,162                    |
| たな卸資産                 | 5,159         | 6,405                    |
| その他                   | 50,628        | 37,608                   |
| 貸倒引当金                 | △208          | △111                     |
| 固定資産                  | 241,615       | 244,708                  |
| 有形固定資産                | 157,138       | 155,403                  |
| 建物及び構築物（純額）           | 90,910        | 91,586                   |
| 土地                    | 55,102        | 55,104                   |
| 1 建設仮勘定               | 4,791         | 2,423                    |
| その他（純額）               | 6,334         | 6,287                    |
| 無形固定資産                | 8,579         | 8,871                    |
| のれん                   | 5,892         | 6,125                    |
| その他                   | 2,686         | 2,745                    |
| 投資その他の資産              | 75,898        | 80,434                   |
| 投資有価証券                | 53,129        | 56,946                   |
| その他                   | 23,792        | 24,510                   |
| 貸倒引当金                 | △1,022        | △1,022                   |
| 資産合計                  | 327,129       | 317,936                  |

1 建設仮勘定

東宝スタジオ新ポストプロダクションセンター（9月竣工済み）及び各地にございます不動産物件の再開発に係る支出として、当期間で2,367百万円増加しております。

2 買掛金

主なものとしては夏休みに配給した映画作品の配分金の増加によるものです。全体では6,278百万円の増加となっております。

（単位：百万円）

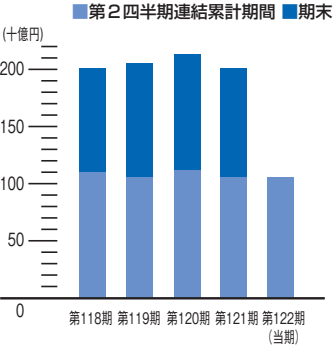
| 科目                     | 当第2四半期連結会計期間末 | 前連結会計年度末に係る<br>要約連結貸借対照表 |
|------------------------|---------------|--------------------------|
|                        | 平成22年8月31日    | 平成22年2月28日               |
| <strong>負債の部</strong>  |               |                          |
| 流動負債                   | 48,576        | 39,906                   |
| 2 買掛金                  | 18,908        | 12,629                   |
| 短期借入金                  | 114           | 99                       |
| 1年内返済予定の長期借入金          | 144           | 309                      |
| 未払法人税等                 | 4,787         | 2,457                    |
| 賞与引当金                  | 941           | 926                      |
| 固定資産撤去損失引当金            | 3,436         | 3,522                    |
| その他の引当金                | 23            | 30                       |
| その他                    | 20,220        | 19,931                   |
| 固定負債                   | 50,885        | 52,007                   |
| 社債                     | 10,000        | 10,000                   |
| 長期借入金                  | 1,160         | 1,190                    |
| 退職給付引当金                | 3,587         | 3,952                    |
| 役員退職慰労引当金              | 348           | 391                      |
| その他の引当金                | 593           | 188                      |
| その他                    | 35,196        | 36,284                   |
| 負債合計                   | 99,461        | 91,914                   |
| <strong>純資産の部</strong> |               |                          |
| 株主資本                   | 200,384       | 196,262                  |
| 資本金                    | 10,355        | 10,355                   |
| 資本剰余金                  | 13,837        | 13,837                   |
| 利益剰余金                  | 179,855       | 175,441                  |
| 自己株式                   | △3,664        | △3,371                   |
| 評価・換算差額等               | 5,383         | 8,143                    |
| 其他有価証券評価差額金            | 4,491         | 7,251                    |
| 土地再評価差額金               | 891           | 891                      |
| 少数株主持分                 | 21,899        | 21,616                   |
| 純資産合計                  | 227,667       | 226,022                  |
| 負債純資産合計                | 327,129       | 317,936                  |

四半期連結損益計算書

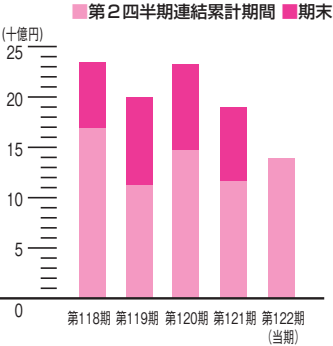
（単位：百万円）

| 科目             | 当第2四半期連結累計期間                  |
|----------------|-------------------------------|
|                | 平成22年3月 1 日から<br>平成22年8月31日まで |
| 営業収入           | 105,434                       |
| 営業原価           | 63,942                        |
| 売上総利益          | 41,491                        |
| 販売費及び一般管理費     | 27,555                        |
| 人件費            | 8,998                         |
| 広告宣伝費          | 3,967                         |
| 賞与引当金繰入額       | 691                           |
| 役員退職慰労引当金繰入額   | 25                            |
| 借地借家料          | 4,166                         |
| その他            | 9,704                         |
| 営業利益           | 13,936                        |
| 営業外収益          | 671                           |
| 受取利息           | 44                            |
| 受取配当金          | 436                           |
| 持分法による投資利益     | 94                            |
| その他            | 96                            |
| 営業外費用          | 174                           |
| 支払利息           | 88                            |
| 貸倒引当金繰入額       | 54                            |
| その他            | 30                            |
| 経常利益           | 14,433                        |
| 特別利益           | 86                            |
| 保険解約返戻金        | 10                            |
| 原状回復費用戻入益      | 22                            |
| 投資有価証券売却益      | 25                            |
| その他            | 27                            |
| 特別損失           | 1,209                         |
| 固定資産除却損        | 100                           |
| 固定資産取壊費用       | 28                            |
| 投資有価証券評価損      | 11                            |
| 立退補償金          | 54                            |
| 固定資産撤去損失引当金繰入額 | 481                           |
| その他            | 532                           |
| 税金等調整前四半期純利益   | 13,310                        |
| 法人税、住民税及び事業税   | 5,319                         |
| 法人税等調整額        | 285                           |
| 法人税等合計         | 5,604                         |
| 少数株主利益         | 485                           |
| 四半期純利益         | 7,220                         |

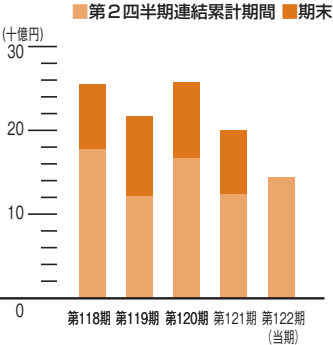
●営業収入



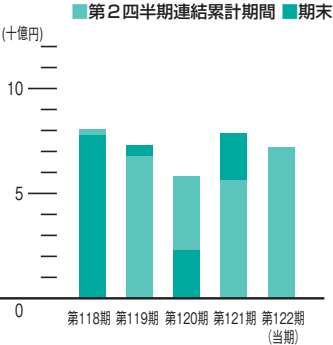
●営業利益



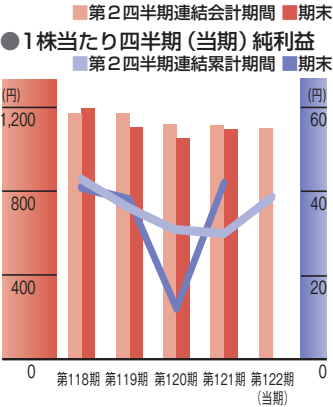
●経常利益



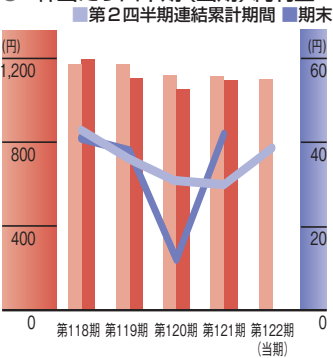
●四半期（当期）純利益



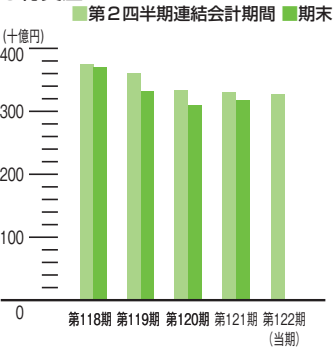
●1株当たり純資産



●1株当たり四半期（当期）純利益



●総資産

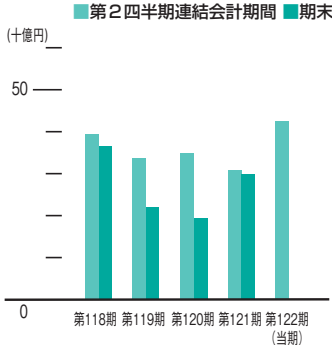


四半期連結キャッシュ・フロー計算書

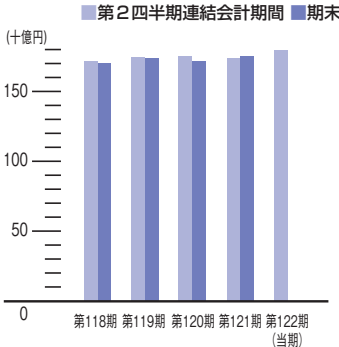
(単位：百万円)

| 科目               | 当第2四半期連結累計期間                  |
|------------------|-------------------------------|
|                  | 平成22年3月 1 日から<br>平成22年8月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 23,914                        |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △7,469                        |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △3,558                        |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △20                           |
| 現金及び現金同等物の増減額    | 12,865                        |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 29,773                        |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 42,639                        |

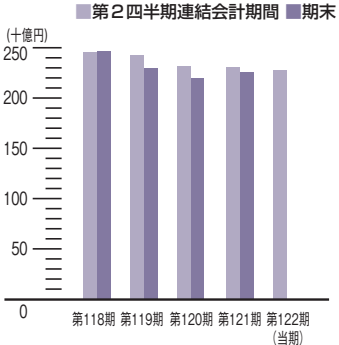
●現金及び現金同等物の残高



●利益剰余金残高



●純資産



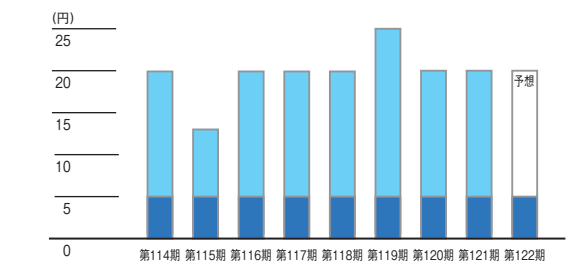
中間配当金について

中間配当金につきましては、既にご案内のとおり、1株5円と決定させていただき  
ました。  
下半期も引続き一層の経営の充実を図り、業績向上を期すべく努力いたす所存で  
ございます。なにとぞ益々のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。  
中間配当金のお支払いにつきましては、特にご指定のない方は同封の中間配当金領  
収証により、払渡期間（平成22年11月5日～平成22年12月6日）中に、ゆうちょ銀  
行全国本支店及び出張所並びに郵便局にてお受け取りください。（同領収証を、お取  
引の貯金口座のあるゆうちょ銀行または預金口座のあるその他銀行窓口にお持ちいた  
だくことにより、その口座へ入金することもできます。）  
また、口座振込をご指定の方は同封の「中間配当金計算書」及び「配当金振込先  
のご確認について」によりご確認ください。

通期の配当予想について

上半期の業績に通期業績予想を加味し、期末の配当金は、普通配当5円に加え、特  
別配当10円の計15円、中間配当金と合わせまして年間配当計20円を予想いたして  
おります。

1株当たり配当金の推移



※平成14年4月(第114期中)に1:10の株式分割を実施いたしました。

東宝グループ各社（連結子会社38社、持分法適用会社4社）

映画製作・配給

(株)東宝映画…………… 映画の企画・製作  
東宝東和(株)…………… 洋画の輸入・配給  
(株)東京現像所…………… フィルムの現像、CG・デジタル合成などの処理

映画興行

TOHOシネマズ(株)… TOHOシネマズ日劇・TOHOシネマズ六本木ヒルズ・  
TOHOシネマズ梅田などの映画館経営  
北海道東宝(株)…………… 恵庭東宝シネマ8の経営  
関西共栄興行(株)…………… 松江SATY東宝・米子駅前SATY東宝などの経営  
九州共栄興行(株)…………… 休眠中  
(株)公衆会館…………… ビルの賃貸

映像の製作・販売

東宝ミュージック(株)… 映画・ミュージカルなどの音楽製作、音楽原盤・著作権の管理  
(株)東宝映像美術…………… 映画・テレビ・CMなどの美術製作、テーマパーク・  
イベントの企画・デザイン・施工  
(株)東宝コスチューム… 映画・テレビ・イベント・テーマパークなどの衣裳  
の製作・レンタル  
東宝舞台(株)…………… 演劇・テレビなどの舞台美術・小道具・衣裳の製作  
東宝アド(株)…………… テレビ・新聞・雑誌など広告媒体の取扱代理業、映像・  
ポスターなど各種宣伝広告物の企画・デザイン・制作  
(株)東宝ステラ…………… 東宝作品のビデオ・パンフレット・キャラクター商  
品などの流通・販売、映画原版・プリントの管理

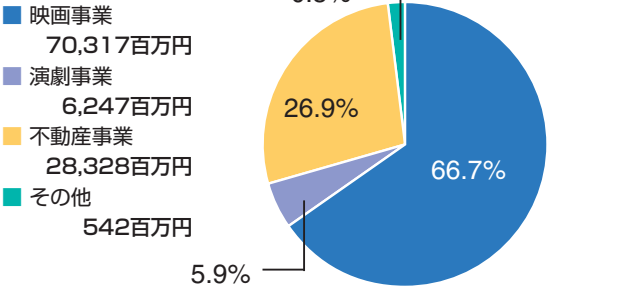
演劇事業

東宝芸能(株)…………… 映画・演劇・テレビなどへの俳優の斡旋、演劇の企  
画・製作、イベントの企画・製作  
(株)東宝エージェンシー… 演劇公演の団体入場券の斡旋・販売  
(株)コマ・スタジアム… 演劇の制作、ビルの賃貸

不動産の賃貸等

国際放映(株)…………… スタジオのレンタル、テレビ番組の企画・制作  
三和興行(株)…………… 新宿三丁目東宝ビル・新宿文化ビルの賃貸  
東宝不動産(株)…………… 東宝ツインタワービル・帝劇ビルなど不動産の賃貸、劇  
場内売店の経営、飲食店の経営、保険代理業、介護事業  
萬活土地起業(株)…………… 長崎・熊本・鹿児島におけるビルの賃貸

●当第2四半期連結累計期間事業部門別営業収入比率



道路事業

スバル興業(株)他11社… 道路の維持清掃及び補修工事、飲食店の経営、有楽  
町スバル座の経営

不動産の保守・管理

(株)東宝サービスセンター… ビルの管理・清掃・警備（東京・仙台・北海道など）  
東宝ビル管理(株)…………… ビルの管理・清掃・警備（近畿・中部・九州など）

飲食・娯楽事業

東宝共榮企業(株)…………… 調布ゴルフコース、調布テニスクラブの経営  
(株)東宝エンタープライズ… 東宝ダンスホールの経営  
東宝フーズ(株)…………… ベーカリーショップの経営、劇場コンセッション用  
及び一般食材等の販売

持分法適用会社

オーエス(株)…………… OSシネマズミント神戸などの映画館経営、OSビル  
など不動産の賃貸、梅田OSホテルの経営  
(株)東京楽天地…………… 錦糸町楽天地ビルの賃貸、TOHOシネマズ錦糸町な  
ど映画館の経営、ボウリング場・サウナなどの経営  
成旺印刷(株)…………… パンフレット・ポスター・チラシなど、各種印刷物の製作  
(株)アイアクセス…………… 道路の維持補修

# Investor Information

株式情報（平成22年8月31日現在）

## 株式の状況

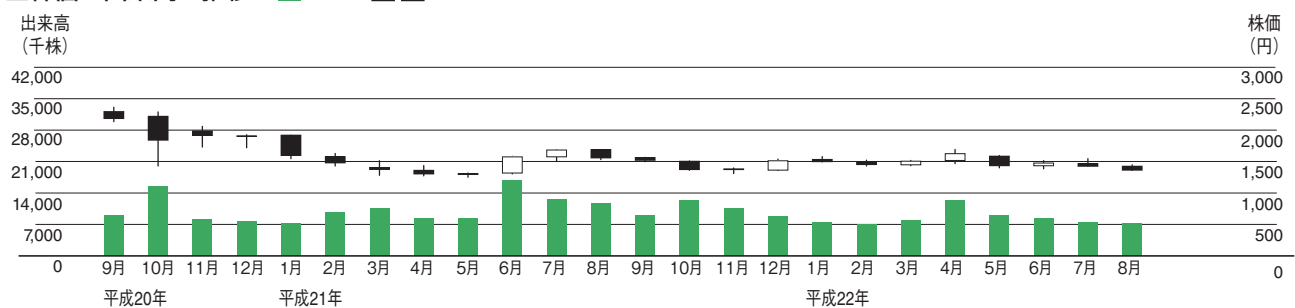
|          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 発行可能株式総数 | 400,000,000株                        |
| 発行済株式の総数 | 188,990,633株<br>(自己株式2,118,213株を含む) |
| 株主数      | 29,714名<br>(前期末比 673名増加)            |

## 大株主（上位10名）

| 株主名                           | 当社への出資状況    |             |
|-------------------------------|-------------|-------------|
|                               | 持株数<br>(千株) | 持株比率<br>(%) |
| 阪急阪神ホールディングス株式会社              | 22,807      | 12.20       |
| 阪急不動産株式会社                     | 15,150      | 8.10        |
| エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社          | 13,664      | 7.31        |
| 日本トラスティ・サービス<br>信託銀行株式会社（信託口） | 6,270       | 3.35        |
| 日本マスタートラスト<br>信託銀行株式会社（信託口）   | 5,530       | 2.95        |
| 株式会社フジ・メディア・ホールディングス          | 4,940       | 2.64        |
| 株式会社TBSテレビ                    | 4,521       | 2.41        |
| 株式会社電通                        | 3,779       | 2.02        |
| 株式会社丸井グループ                    | 3,223       | 1.72        |
| 株式会社竹中工務店                     | 2,885       | 1.54        |

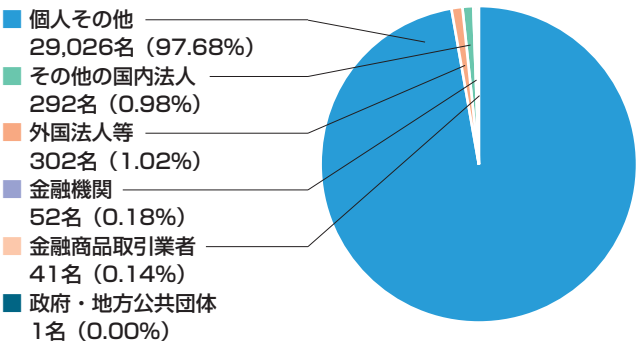
（注）持株比率は、自己株式2,118,213株を控除して計算しております。

## 株価・出来高の推移

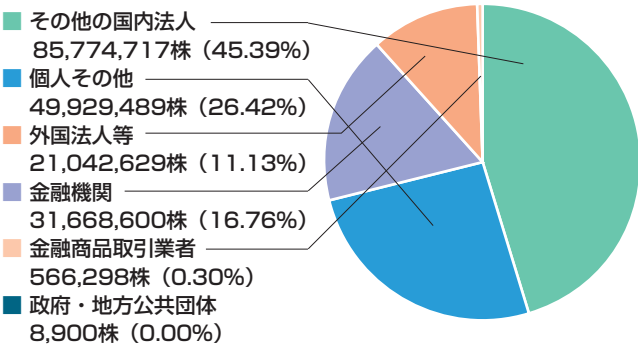


## 所有者区別株式分布状況

### 株主数



### 株式数



# Corporate Data

## 会社概要

## 会社概要（平成22年8月31日現在）

|         |                                                                                         |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 会社名     | 東宝株式会社                                                                                  |
| 設立      | 昭和7年8月12日                                                                               |
| 資本金     | 10,355,847,788円                                                                         |
| 従業員数    | 384名<br>但し、嘱託14名、出向受入者29名を含み、<br>出向者110名を含みません。                                         |
| 本社      | 東京都千代田区有楽町一丁目2番2号                                                                       |
| 支社      | 関西（大阪）                                                                                  |
| スタジオ    | 東京 世田谷（成城）                                                                              |
| 演劇直営劇場  | 本社直轄2劇場（帝国劇場、シアタークリエ）                                                                   |
| その他の営業所 | 有楽町センタービル（通称有楽町マリオン）<br>東宝日比谷ビル（通称日比谷シャンテ）<br>東京宝塚ビル<br>東宝シアタークリエビル<br>HEPナビオ<br>東宝南街ビル |
| 主な事業内容  | 映画の製作、売買及び賃貸借、<br>テレビ放送番組等の制作及び販売、<br>映画のパンフレット及びビデオソフトの製<br>作並びに販売、商品化権に関する事業、<br>その他  |
| 演劇      | 演劇の企画、製作及び興行                                                                            |
| 不動産経営   | 土地・建物の賃貸借、その他                                                                           |

## 役員（平成22年10月1日現在）

|                |       |                                          |
|----------------|-------|------------------------------------------|
| 代表取締役<br>取締役社長 | 高井 英幸 | 映像本部長兼映像本部国際、<br>経営企画各担当<br>内部監査室直轄      |
| 専務取締役          | 千田 諭  | 映像本部映画営業、同宣伝各担当                          |
| 専務取締役          | 中川 敬  | 不動産経営、スタジオ各担当<br>TOHOシネマズ株式会社代表取締役<br>社長 |
| 専務取締役          | 増田 憲義 | 演劇担当                                     |
| 専務取締役          | 高橋 昌治 | 人事労政、総務各担当<br>兼経営企画担当補佐                  |
| 専務取締役          | 島谷 能成 | 映像本部映画調整、同映画企画各担当                        |
| 常務取締役          | 浦井 敏之 | 経理財務、情報システム各担当<br>兼特定取締役                 |
| 取締役            | 角 和夫  | 阪急阪神ホールディングス株式会社<br>代表取締役社長              |
| 取締役            | 大隈 廣  | 株式会社コマ・スタジアム<br>代表取締役社長                  |
| 取締役            | 石塚 泰  | 人事労政部長                                   |
| 取締役            | 太古 伸幸 | 経営企画部長                                   |
| 取締役            | 新坂 純一 | 映像本部映像事業担当                               |
| 取締役            | 山下 誠  | 不動産経営部長                                  |
| 常勤監査役          | 赤井 紀雄 | 監査役会議長兼特定監査役                             |
| 常勤監査役          | 村上 主税 |                                          |
| 監査役            | 大西昭一郎 | 弁護士                                      |
| 監査役            | 大橋 太郎 | 阪急電鉄株式会社相談役                              |

■株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日  
定時株主総会 5月中  
配当金受領株主確定日 期末配当金 2月末日  
中間配当金 8月31日  
基準日 定時株主総会 2月末日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して  
臨時に基準日を定める。  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号  
電話 0120-232-711（通話料無料）  
※特別口座に関する変更届等用紙のご請求は  
電話 0120-244-479（通話料無料）  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>  
公告掲載URL [http://www.toho.co.jp/toho\\_ir/](http://www.toho.co.jp/toho_ir/)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電  
子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載す  
る方法によって公告いたします。

●表紙のご紹介

2011年に開場100周年を  
迎える帝国劇場

〒100-8415  
東京都千代田区有楽町一丁目2番2号

東宝株式会社

総務部 電話（03）3591-1214  
<http://www.toho.co.jp>

■株主優待

株主カード及び株主映画ご招待券交付基準

| ご所有株数          | 株主カード貸与枚数 |          | 株主映画ご招待券発行<br>シート数（半年につき）（※） |
|----------------|-----------|----------|------------------------------|
|                | ご本人カード    | ファミリーカード |                              |
| 1,000～1,999株   | 1枚        | 0枚       | 1シート                         |
| 2,000～2,999株   |           |          | 2シート                         |
| 3,000～4,999株   |           |          | 3シート                         |
| 5,000～9,999株   |           | 1枚       | 6シート                         |
| 10,000～19,999株 |           | 2枚       | 10シート                        |
| 20,000～29,999株 | 3枚        |          | 15シート                        |
| 30,000～49,999株 |           |          | 20シート                        |
| 50,000～99,999株 |           |          | 25シート                        |
| 100,000株以上     |           |          | 30シート                        |

- ・株主映画ご招待は、株主カードと株主映画ご招待券を映画館チケット売場等  
でご提示いただき、双方に記載された優待番号が一致したとき、ご利用いた  
だけます。
- ・株主カードの発行は、原則として初回のみ、5月下旬または11月中旬となり  
ます。
- ・株主映画ご招待券1シートは、**指定2ヶ月間通用券**×6枚となります。  
2月末日現在の株主に5月下旬に発行：**6・7月、8・9月、10・11月通用**各2枚。  
8月末日現在の株主に11月中旬に発行：**12・1月、2・3月、4・5月通用**各2枚。

株主映画ご優待券交付基準（800円で映画をご覧いただけます。）

|           |       |           |       |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 100株～499株 | 半年 2枚 | 500株～999株 | 半年 8枚 |
|-----------|-------|-----------|-------|

2月末日現在の株主に6月から11月まで半年間通用の券を5月下旬に発行。  
8月末日現在の株主に12月から翌年5月まで半年間通用の券を11月中旬に発行。

株主優待制度についての詳細は、当社ホームページ「会社情報」「株主優待」を  
ご覧ください。